

にも奈良朝の美術家が是非後世に奈良朝の美術を遺してやろうと故意に作つたわけでは有りません。只後世から見て奈良朝のが自から奈良朝の美術を表はして居るのです。明治の美術も亦同様でしょう。近代的だのナンのと騒ぐ必要はない。黙つて居ても明治の美術は有るのです。之は只美術家の勉強の如何に依るのです。

以上のお談も私は破解的の議論を並べる積りでは無い。イクラ自分は自分でであると云つた處で、そう云ふだけの資格の無い人。即ちまだ習いたての人達には矢張一と通り先輩に就て道を聞くが順序です。將又自分とは自分と云つたからとて、決して他に對して反抗的の舉動に出ると云ふ意味でもありません。畫の道を歩むに就ては、自分は人とは境遇も思想も性質も經驗も違ふから勢ひ人のやるようには行かず。又各々が天賦の畫才を益々磨き我が獨創を發揮することが美術上終局の目的であることを思ふ時は、苟も人を頼まず時世に倚らず。人は人自分は自分でドコまでも成し遂げたいと思ふので有ります。

△ △ △

美術は元來世潮外に超然たる可き性質のものにはあれど、人が製作し人が楽しむ以上は勢ひ其間に流行なるものが現はれざるを得ず。狩野派の雅朴なるが流行する時もあれば浮世畫派の艷麗なるが受けらるゝ時もあらん。油繪が勢を得て水彩畫が振はざることあるも之れ一時の現象に過ぎず、畫其物の價值には何等の増減あるにあらず。

日本人の氣性と手の働きより考へ且又日本畫は古來日本人に密接の關係ある一種の水彩畫なることをも思ふに於て日本には油繪よりも水彩畫が寧ろ適するには非らざるか。且大なる規模のものには不可なるべしと雖も元來我邦の風景と云ひ生活と云ひ凡てが敢て大なる規模には出來居らず。豈に美術のみが之と連絡を斷ちて獨り大なる規模なるを要すべきや。(寫生趣味)